

PEER

先行！
プログラム集

2016

1日目タイムスケジュール

	中講義室7 A359 48人	階段教室 A443 264人	大講義室1 A346 98人	中講義室1 A337 48人	中講義室6 A358 47人	大講義室2 A351 101人	大講義室3 A356 98人	中講義室2 A352 47人	中講義室3 A353 47人	中講義室5 A357 47人	
11:00											
12:00											
13:00	運営本部	開場	集いカフェ	12:30 OPEN!	受付 クローク	12:30~	演者控室				
14:00		開会式		物販&休憩 スペース							※お荷物の 引き渡しは 17:30迄
15:00		全体会 シンポジウム						15:00~入室開始			
16:00		開場		17:00頃 close							
17:00	プレ懇親会	18:00~20:00 懇親会@食堂									
18:00											
19:00											

※休憩には主に集いカフェ(大講義室1 A346)をご利用ください

※クローク(中講義室1 A337)は17:30迄で締めます。懇親会へは荷物を持ってご移動ください。

※構内は全面禁煙です

※運営本部、演者控室は関係者以外のは入室はご遠慮ください

2日目タイムスケジュール

	中講義室7 A359 48人	階段教室 A443 264人	大講義室1 A346 98人	中講義室1 A337 48人	中講義室6 A358 47人	大講義室2 A351 101人	大講義室3 A356 98人	中講義室2 A352 47人	中講義室3 A353 47人	中講義室5 A357 47人	
8:00											
9:00											
10:00	運営本部	協会総会 昼食会場	集いカフェ	12:30 OPEN!	受付 クローク	9:30~	演者控室	10:00~12:00 分科会6~10			
11:00											13:15~入室開始
12:00								昼食会場	13:30~15:30 分科会11~15		
13:00								物販&休憩 スペース			
14:00								昼食会場	※お荷物の 引き渡しは 16:00迄		
15:00								アトラクション タイム クローキング			
16:00											

昼食会場について

・大講義室1(A346) ※集いカフェのお部屋となります。ご自由にお過ごしください

・大講義室2(A351) 12:00~13:00まで ※午後の分科会の準備がありますので13時には一旦退室して頂きます。

・階段教室(A443) 12:00~13:15まで ※協会総会を行っていますのでおしゃべりはお控えください。

1日目午後

11月12日（土） 15:15 – 16:45

分科会 1 ピアスタッフとおカネ

【分科会担当者】

竹内 正治（日本ピアスタッフ協会）
引地 はる奈（障がい者相談・地域活動支援センター「ひびき」）
飯山 和弘（特定非営利活動法人じりつ）
相川 章子（聖学院大学）
古関 俊彦（NPO法人颯埜扉）
今川 亮介（社会医療法人智徳会
未来の風せいわ病院）

ピアスタッフとおカネの分科会では、全国のピアスタッフがいくらかの年収をもって、どれくらい格差があるのかを浮き彫りにしたいです。

四人の演者は管理職のピアスタッフが二名、職員としてピアスタッフをしている方一名、大学でピアスタッフを研究している教授一名で構成されています。最終目的としてピアスタッフが最低限安心して生活できる賃金の額を明確にしたいと思います。一方で安い賃金で使われているピアスタッフもいると思います。

実家暮らし。障害者年金と組み合わせようやく暮らせるピアもいます。もっとうと生活保護を受けながら働いているピアスタッフもいます。おカネは大事です。労働に見合った賃金が保証されない限り、潰れてしまうピアスタッフが出てくることでしょう。そんなことを共有し、堂々と賃金交渉まで言える人材を見つけたいです。

分科会 2 ピアスタッフの立ち位置

【分科会担当者】

眞嶋 栄（社会福祉法人のうえい舎もくせい舎・ゆい）
江間 由紀夫（東京成徳大学応用心理学部教授）
関口 明彦（NPO法人みゆう ライフサポートMEW）
宇田川 健（認定NPO 法人
地域精神保健福祉機構・コンボ）

援助を受けている人々が援助を提供する側へピアスタッフは、この転換を実現しました。

しかしながら現状の制度では、ピアでない専門職のスタッフとの待遇の違いや権限の差という課題も生じています。

ここでは、ピアによる活動を精神保健福祉の歴史から振り返り、医療や福祉の支援を超えたピア独自の立ち位置と意義について考えてみたいと思います。

ピアスタッフの立ち位置は、職場や職場内での力関係に依るところが大きいののが現実だと思う。ピアと言うからには仲間を支援するのだから、自分がやられては困る様なことはしないと云うのが最低限の線になる。

そのことは健常者が行う支援よりもずっと強烈に意識しなければならない。

分科会3 1年目ピアスタッフが語る「なってみて初めて分かったピアスタッフの光と影」

【分科会担当者】

堀合 研二郎、佐藤 友昭、木下 美奈子
(NPO法人さざなみ会就労継続支援B型シャロームの家)
田村 大幸 (NPO法人さざなみ会 森の庭)
福島 渚 (地域活動支援センター第2けやき・ピアサポーター)
野間 慎太郎、伊藤 佐恵子 (神奈川区生活支援センター)

人間は忘れっぽい生き物だと思います。
ピアスタッフもなって時間がたてば、なる前の期待感、なった直後の戸惑い、なって初めて分かった大変さ等、忘れてしまうのではないのでしょうか？

だったら、なったばかりの1年目ピアスタッフだけを集めて、忘れてしまう前に話を聞いてやおう！という企画です。

一年目だからこそ言えること。気付けたこと。
一年目だからこそ分らないこと。迷うこと。色々あると思います。

1年目ならではの初々しい視点が、意外にも問題・課題を解決する糸口になるかもしれない。そんな期待を持って企画しました。

分科会4 実践報告会～ピアスタッフの持つ対人支援力～

【分科会担当者】

加藤 伸輔 (ピアサポートグループ在・一般社団法人アプローズ)
駿河 孝史 (東北地方の精神科病院)
川村 全 (訪問看護ステーション ACT-J・ピアスタッフ)
岩谷 潤 (メンタルヘルス診療所しほふぁーれ・精神科医)
大江 祥博 (就労支援センターFLaT・大江ん隊隊長)
澤田 高綱、増子 徳幸
(一般社団法人てとてリンクよこはま訪問看護ステーション)
中村 麻美 (地域活動支援センターひふみ)
村山 哲
(横浜市総合保健医療財団 港北区生活支援センター)

ピアスタッフは、対人支援職です！

ピアスタッフは、対人支援場面においてどのように考え、何をどのように実践し、次の実践へとつなげているのでしょうか？

「ピアスタッフの専門性は体験・当事者性である」という意見もあります。そんな抽象的な言葉じゃよくわかりませんよね。
それぞれのもつ力は場や実践に埋もれているはずですよ。

今回、対人支援を行うピアスタッフの実践報告やフロアの皆様との対話を通して、ピアスタッフの対人支援力を明らかにしていきたいと考えています。すでにピアスタッフの人も、ピアスタッフになりたい人も、一緒に働いている人も、未知数の力を信じて一緒に働きたいと思っている人も、ピアスタッフの対人支援力を見つけて行く旅に一緒にしませんか？

分科会5 【公募企画】『私の実践記録』 ～退院支援を含めた精神科医療・福祉の関わりの中で～

【分科会担当者】

笠原 健 (NPO法人 中央むつみ会
社会福祉法人ヨハネ会地域活動支援センター)
ヨハネピアサポーター 作業療法士
坂井 宗月 (NPO法人中央むつみ会 施設長)
森沢 裕行 (社会福祉法人ヨハネ会 地域活動支援センター
ヨハネ センター長)

精神科医療に関わる専門職であった笠原自身の、発病、退職、入退院経験を経て、地域活動支援センターへの通所、そこからのリハビリ、そしてピアサポーターとして働き始めた分岐点を話す。

また、精神科病院からの退院支援の関わりの中で感じたことを、今現在の経験も含め事例発表する。

※ピアサポーターの立場、専門職の立場で共同演者からも話をします。作業療法士の学生時代に実習で関わった患者さんとのエピソードや、精神科病院に勤務し、ある患者さんとのエピソードから今も大事にしている思いも共有したいです。

そして、分科会参加者と交流（質疑応答や意見交換）しながら、ピアサポーターの今とこれから、退院支援について、皆でより思いを深めるキッカケとしたいです。

2日目午前

11月13日（土）10:00 – 12:00

分科会6 “地域移行・定着支援”の視点 ～ピアスタッフと専門職の協働について考える～

【分科会担当者】

中林 澄明、伊澤 雄一（はらからの家福祉会）
古屋 龍太（日本社会事業大学大学院）
原田 幾世（一般社団法人COM'S）
長岡 千裕

ピアスタッフの活用が期待されるひとつに“地域移行・定着支援”があります。

地域移行支援は、厚生労働省の患者調査にて明らかとなった退院の環境さえ整えば退院可能な72,000人の長期入院患者の退院を促進するための取り組みです。平成18年より退院促進事業という形で始まり、現在は都道府県地域生活支援事業における地域移行・地域生活支援事業（アウトリーチ事業、ピアサポートの活用など）と、福祉サービスとしての地域移行支援・定着支援として地域差はあるものの取り組みが継続されています。

この分科会では、長期入院患者が退院し「ふつうのくらしのしあわせ」を手元に戻すための取り組みを伝え、ピアスタッフと専門職等と協働で対象者に行う寄り添いの信頼関係の構築とは何か考えます。

また、実際にピアスタッフが行っている病棟勉強会を体験します。

分科会7 ピアスタッフとバウンダリー ～ピアスタッフとして、人として～

【分科会担当者】

鶴水 牧子、川村 有紀
（障害者相談支援事業所てれんこ）
伊藤 竹海（イトーキカク）
駿河 孝史（東北地方の精神科病院）
木戸 芳史（三重県立看護大学）
山下 真裕子（神奈川県立保健福祉大学）

ピアスタッフは、その名前の通り、当事者でもあり、専門職とはまた違ったかたちでバウンダリーについて悩んだりすることがあります。

支援を行っていく中で、自分の心の状態との葛藤、現在のピアスタッフの置かれている環境や立場による苦しみ、ピアスタッフである以前に一人の人間であり、一人の当事者であるという思い。同じピアスタッフでも、働いている分野や年数など違いがあり、抱える問題もそれぞれ。

そして、支援者・研究者からも話題をいただき、ピアスタッフとバウンダリーについて共有していきます。グループワークの時間を多く取ることで、話を聴くだけでなく、参加者も交えて深めていきます。

ピアスタッフだけに限らず、関わる皆さんにとって、何かしらのヒントを得られる機会になることを期待しています。

分科会8 働き続けるために

【分科会担当者】

瀧沢 賢広 (シャローム港南)
竹内 政治 (当事者会WEEDS)
高木 良 (NPO法人レジスト 就労継続支援B型レジネス)
清田 由夏、堀合 悠一郎
(NPO法人さざなみ会 就労継続支援B型シャロームの家)
山田 龍 (神奈川県精神保健福祉士協会)
尾山 篤史 (障害者相談支援事業所 ハートラインあゆみ)

就労したからには安定した状態で長く働きたい、それはピアスタッフに限らず働く人全てが願うことだと思います。

しかし、ピアスタッフは自ら精神疾患を抱えているという性質上、健康面にどうしてもハンデを抱えている状態です。そのような中でも、長く働き続け、充実した公私生活を送っていくためには何が必要なのでしょう。

自身・環境の両面からピアスタッフとして長く働いてゆくための方策・秘訣を考えていきたいと思います。

ピアスタッフとして働いている方はもちろん、ピアスタッフを雇用している/共に働いている方、ピアスタッフになりたいが不安を持っている方の参加も歓迎です。

納得いくまで就労を続けていくには何が必要なのか考えていきましょう。

分科会9 「ご当地企画～かながわのピア活動ってどうなの?～」

【分科会担当者】

前田 梨夏 (地域生活サポートセンターとらいむ)
飛田 美幸
(横浜市総合保健医療財団 磯子区生活支援センター)
榛澤 昌高
(相模原市精神障害者なかまの会 (あしたば会))
鈴木 恒介 (地域活動支援センター第2けやき)
鶴田 裕 (百合丘地域生活支援センターゆりあす)

神奈川県のパイを取り巻く現状は一言では言い表せません。

開催地横須賀と政令市横浜、川崎、相模原で活躍するピアスタッフをお招きして、各地域の取り組みや、現状について報告していただきます。

そこにはどんな個性や地域差が存在するのでしょうか?

後半は全国から会場に集まる皆さんと一緒に「どうする神奈川県」「ここが変だよ神奈川県」をテーマにディスカッションしながら、全国各地の取り組みなども自由に発言していただける場を設定。

日頃の苦労や課題も分かち合いながら、神奈川県のパイを明るく底上げしていきましょう。

分科会10 【公募企画】ピアスタッフという言葉の前で、ピアサポートを考える。 ～インテンショナル・ピアサポート ワークショップ～

【分科会担当者】

今川 亮介
(社会医療法人智徳会 未来の風せいわ病院)
柴田 緑
神田 博文

ピアスタッフという言葉があります。でも、その言葉ばかりが先行し、本当に大切なものが忘れられているような気がしてなりません。

私たちは、たくさんの人と関わって存在しています。隣にいる人の世界に触れる時、思いを馳せる時、どんな感情が湧いてきたり、どのように関わっていこうと思うのでしょうか。

この分科会では、それを考えていく手掛かりとして、インテンショナル・ピアサポートのワークショップを行います。インテンショナル・ピアサポートとは、アメリカのシェリー・ミードさんが提唱している、ピアサポートの新しい関係性です。

この分科会の出演者には、肩書きはありません。一人の人としてどう生きていくのか、どう生きていきたいのか、そしてほんとうのピアサポートは何かについて考える分科会にしたいと思っています。

2日目午後

11月13日（土） 13:30 – 15:30

分科会 1 1 「ふるすあるは」 × 「伝えるカード」をつくる会 ～伝えたい下手さん大集合～

【分科会担当者】

池田 真砂子、松清敏子、吉田あい
(NPO法人ゆるら)
北野 陽子、細尾ちあき (NPO法人ふるすあるは)
齊藤 亮 (地域活動支援センターつばさ)
横田 和弘
今川 亮介 (未来の風せいわ病院)



体調・気持ち・考え・状況・大切なメッセージ・・・伝えたいのにうまく伝えられない経験ありませんか。仲間に、職場に、家族に、パートナーに、伝えるときにちょっと勇気が出るような素敵なオリジナルのカードをふるすあるはさんと一緒に楽しく作りたいと思います。
(託児はありませんが、お子さんの同伴OKの会です。)

～「ふるすあるは」さんのご紹介～
精神障がいを抱えた親とその「子ども」が、まわりの大人からサポートされ、安心と希望を持って生活できる社会をビジョンに活動されています。

- 家族のこころの病気を子どもに伝える絵本、子どもの気持ちを知る絵本の作成・普及
- 精神障がいのあるご本人とその「子どもたち」、ご家族、及び支援者の方々に安心と希望を届ける総合情報サイト「子ども情報ステーション」の運営
- 全国津々浦々でのワークショップの開催
- 精神保健に関するツールやリーフレットの作成

などなど、その活動は多岐にわたります。

分科会 1 2 利用者からみたピアスタッフ

【分科会担当者】

聴覚障害の利用者さん (3名)
古関 俊彦 (NPO法人聴覚障害)
色摩 玉江 (NPO法人聴覚障害)
眞嶋 栄
(社会福祉法人のうい舎もくせい舎・ゆい)
川村 有紀 (障害者相談支援事業所てれんこ)

援助を受けている人々が援助を提供する側へピアスタッフは、この転換を実現しました。しかしながら現状の制度では、ピアでない専門職のスタッフとの待遇の違いや権限の差という課題も生じています。

ここでは、ピアによる活動を精神保健福祉の歴史から振り返り、医療や福祉の支援を超えたピア独自の立ち位置と意義について考えてみたいと思います。

ピアスタッフの立ち位置は、職場や職場内での力関係に依るところが大きいというのが現実だと思う。ピアと言うからには仲間を支援するのだから、自分がやられては困る様なことはしないと言うのが最低限の線になる。

そのことは健常者が行う支援よりもずっと強烈に意識しなければならない。

分科会 1 3 ピアスタッフと名乗ることへの葛藤とその向こう側

【分科会担当者】

佐々木 理恵

(一般社団法人WING-NETWORK リカバリーカレッジたちかわ)

安保 寛明 (山形県立保健医療大学)

澤田 高綱

(一般社団法人てとてリンクよこはま訪問看護ステーション)

佐藤 由美子 (国立精神・神経医療研究センター病院)

長岡千裕

「ピアスタッフ」という名のもとに働くときには、個人としての自分に「精神的困難を持つ人」というラベリングがつくことを引き受けることになる。

顔の見える関係やある程度公開している関係性の中では、病を持ちつつも働くことについて尊重される感覚を得やすい。

けれど「ピアスタッフ」と公表することで、それまで非公開でいた知らない人たちからの不用意な反応を受けることも同時に引き受けることとなる。またいつまで経っても自分は「精神的困難を持つ人」であるというスティグマと対峙し続けなければならないその状況自体が個人のリカバリーの妨げになっていることは無いだろうか。

けれどもそれらを引き受けた上で自身の経験を届けることに生きる意味を再度見出したピアスタッフと共に葛藤の向こう側について一緒に考えてみたいと思う。

分科会 1 4 「下げちゃえ、ピアスタッフ雇用のハードル」 ～ピアスタッフと働きたい人集まれ！～

【分科会担当者】

光枝 茉莉子

(一般社団法人アプローズ代表理事/㈱アンフィニテ 代表取締役)

加藤 伸輔

(ピアサポートグループ在/一般社団法人アプローズ)

齊藤 剛

(レジネス(就労B)所長/NPO法人レジスト理事長)

高木 良 (レジネス(就労B)ピアスタッフ)

飛田 美幸

(横浜市総合保健医療財団 磯子区生活支援センターピアスタッフ)

福山 修三

(横浜市総合保健医療財団 磯子区生活支援センター所長)

ピアスタッフを「雇用したい」「一緒に働きたい」と思いませんか？逆に、実際に雇用し、一緒に働くことを考えると心配や不安になりませんか？その不安、ぜひ持ち込んでください！！

この分科会は、実際にピアスタッフを雇用する雇用主や共に働く支援職等の経験談を用い、『下げちゃえ、雇用のハードル』と銘打ち、会場参加型で一緒に楽しく考える時間を持ちたい、と企画しました。

どうしてピアスタッフの雇用は進まないのか？また、どうしたら雇用は進むのか？ピアスタッフ雇用のハードルが下がり、雇用が自然に進み、明日にでも求人募集がしたくなるような具体的なヒントを持ち帰って頂けると嬉しいです。

また、この分科会を通してピアスタッフ雇用促進やピアスタッフ同士の輪が広がることを期待しています。

分科会15【公募企画】ピアスタッフと専門職が共に働くことについて ～(株)MARSの取り組み～

【分科会担当者】

中田 健士 (株式会社MARS)

高橋 美久 (株式会社MARS)

就労継続支援B型事業所TERRA

サービス管理責任者)

株式会社MARSは、ピアスタッフが活躍するために2009年に設立した会社である。設立当初はカフェの運営などで働き、現在は福祉サービスのサービス管理責任者として働いているピアスタッフと初めてピアスタッフと一緒に働くことになったPSWが互いこのように考え、支援の仕事をしてきたのか。

それぞれの戸惑いや苦勞、また協働して支援を行うことでの有効性や効果などを具体的な事例の発表やピアスタッフとしても様々な働き方があることなどを発表する。

また、参加者とも意見交換を行いながら、これからの医療・福祉サービスの現場でのリカバリーの経験を活かして働くピアスタッフと専門職との協働の在り方や課題などの議論ができればと考えている。